

(ウ) 国、重要インフラ等に対する安全保障上の懸念を生じさせる重大なサイバー攻撃について、可能な限り未然に攻撃者のサーバ等への侵入・無害化ができるよう、政府に対し必要な権限が付与されるようにする。

- ゲストスピーカー高見澤氏（東京大学公共政策大学院客員教授）から、サイバー安全保障における政府に求められる役割についてプレゼンテーション
 - サイバー安全保障能力の向上は、諸懸案への対応のカギを握る共通のソリューション
 - 制度の立案過程において、運用のイメージを作り、省庁間協力の在り方などについて、事例演習を積み重ねていくこと、そして絶えず見直していくサイクルが重要
 - アクセス・無害化措置に当たって平素からの活動が基盤であるとともに、緊急性を意識した、迅速かつ臨機応変な対応が特に重要。その意味で、現場対応の力、Improvisationのスピリットが求められる
 - アクセス・無害化措置の対象事案のスコープは、社会全体の機能維持（レジリエンス）と安全保障能力の基盤の確保を重視すべき
 - アクセス・無害化措置に当たっては、平素からの、また、サイバーに限られない情報収集が重要。関係機関等による多様な機能・能力を活用すべき
 - 強度の高い措置の実施に際しては、政治、外交等の他の枠組みの活用可能性を追求し、それを踏まえた総合的判断が必要であり、司令塔の存在が極めて重要
 - 平時と有事の境目がなく、事象の原因究明が困難な中で急激なエスカレートが想定されるなどのサイバー攻撃の特性から、事態を細かく区切り事態を認定するという従来 of 事態認定の方式ではなく、平素から我が国を全方位でシームレスに守るための制度の構築が必要ではないか
- 事務局から、アクセス・無害化措置の必要性やその内容についてプレゼンテーション及びこれまでのテーマ別会合「アクセス・無害化措置」における議論を整理

- プレゼンテーション及び議論の整理に対する意見交換は主に以下のとおり。
 - 無害化措置は、我々が価値創造を行う安全なサイバー空間を守る観点で必要
 - 被害防止を目的とするものであり、インシデントが生じてから令状審査を行うのではなく、比例原則を遵守しつつ、現場の判断で適切な手法を選択して措置を実施していく臨機応変さが重要。そのため、サイバー対処の現場には各分野に精通した人材がいることが重要
 - 具体的な活動の内容を要件と効果で規定して羅列するのではなく、目前に存在する危険に対して、危害防止のための措置を即時執行としてとることとしている警職法を参考とする必要性を改めて強く認識
 - 個別のアクセス・無害化措置のオペレーションに政治が個別に確認・承認するのではなく、適切なポリシーの下で、様々な分野における専門家集団がチームでオペレーションを回せるようにする必要があるのではないか
 - 透明性や公正性の担保、プライバシー保護、また、サイバー攻撃の特性に応じた執行の観点から、アクセス・無害化措置の適正性を確保する制度の検討（独立した立場からの監督など）、意図しない結果が生じた際の対応、現場における執行権限の必要性等に配慮すべきではないか
 - 多様な人材が一緒になって無害化の戦略を作っていくエコシステムが重要
 - 「アクセス・無害化措置」の体制を構築するには極めて高度な専門家・人材の育成が必要。サイバー人材の育成には通常教育に加え、実践教育も必要であることを念頭に置いた教育システムの構築が必要。また、人材育成のための教育機関の拡充と官民との間を高い技能を持つ人材が円滑に行き来して充実した交流が発展していくようなシステムの構築が検討されるべき
 - 今回の問題は、事態を認定した上で対応するという従前の考え方では、対応できない点。新しい概念をどう構築していくのか、検討すべき
 - 制度の立案プロセスから制度の運用のイメージまで、国民全員で考え、解釈し、咀嚼していくことが重要